

ほつとらいん ふろむ ほんごう

重度身体障がい者 IT コミュニケーション 支援講座開催

主催：NPO 法人さくら会，協賛：NEC 社会貢献室

ALS などの難病によって、話すことや書くことができなくなった患者の意思伝達装置では、日立製作所の「伝の心」が知られている。「伝の心」は、ディスプレイ上に表示された文字盤やメニューの上を、カーソルが自動的に動くように設定しており、文字盤やメニューの希望の箇所にカーソルが移動したときに、身体の一部をつかってスイッチを押すことで、項目を選択し、意思を伝えていくことができる。

「伝の心」のほかにも、NEC の「オペレートナビ」などのパソコン操作支援ソフトが開発されている現在では、パソコン初心者の場合→「伝の心」、すでにパソコンを知っている・使っている方→「オペレートナビ」という使い分けがされ、市場を 2 分している状況となってきた。今後はパソコンを使い慣れている患者が増えていくであろうし、IT を利用したコミュニケーションの可能性はさらに広がっていくに違いない。

そのようななかで重度身体障害者のための意思伝達装置について理解している人はまだまだ少なく、少数



IT サポーターがいてねいに教えてくれます

のボランティアに頼っている現状がある。障害者の一番近くにいる家族やケアの専門職に実際に体験して学んでもらえば、状態に合わせたアドバイスができ、患者にとって心強い。

●企業の支援をひきだしたさくら会

NPO 法人さくら会の IT 事業部門では、NEC の資金





でき上がりはこのようになります

援助を受けて、意思伝達装置とスイッチの教育啓発事業を開始した。さくら会の川口有美子氏は、「各家庭や病院への出張サービスは、これまでは ALS 協会や行政指定のボランティアが対応してきたのですが、これからは、関連企業の助成金を受けて積極的に事業化していきたいと考えています。企業による難病支援には将来性があり、こうした講座も要望があれば全国の病院や施設で開催していけると思います」と語る。

9月13日(土)、東京女子医科大学(東京都新宿区)で開催された支援講座を取材した。

受講対象者の資格に制限はなく、看護師、PT、OT、医師、介護福祉士、ヘルパーをはじめ、患者の家族、友人、ボランティアなど、患者に接する機会のある人であれば誰でも受講できる。定員は20名で、目的は「難病患者が意思伝達の手段としてパソコンを活用する場合の操作方法、操作手段(入力補助機器の選択)、ターミナルスイッチの製作などに関し、サポートやアドバイスができる人材を養成すると共に、難病患者当事者にもパソコンの活用を広く啓発する」こと。

●入門編のプログラム

講座は10時から始まった。まず、難病患者のパソコン活用の実際、講師のサポートの実体験を写真、ビデオの映像で学ぶ。行なわれるサポートについての概要の説明である。次に、パソコンを活用するためのハード、ソフトの紹介。入力補助機器としてのスイッチの重要性やパソコン操作のための支援ソフトについての説明。ここで昼食タイムが入る。

午後の部は「上肢障がい者向けパソコン操作支援ソフトの体験」。午前中に紹介された「伝の心」「オペレートナビ」「Hearty Ladder」などについて、実際にやってみる。その後、机を寄せての実習。工夫が凝らされているスイッチの紹介と体験の時間である。家庭用ゲーム機のゲームコントローラーが講師から配られた。秋葉原では廉価で手に入るとのこと。このゲームコント



参加者には講師の今井氏から修了書が授与されました

ローラーを改造し、プリンカップを利用したスイッチを接続してターミナルスイッチユニットに作り変えるのである。

●支援講座を支援する方たちの存在

順序を間違えないように、分解したらまた元に戻せるように、と注意深く作業は進む。電気に詳しい品川 IT サポーターズというボランティア団体の方々が各グループに入って、はんだづけのコツを伝授してくれたりもする。作り上げたスイッチは実際に使えるかどうかのテストの後、完成となる。

講師はさくら会の IT 事業部に所属する今井啓二氏、仁科恵美子氏。お二人は仕事の合間を利用して障害者、高齢者に対するサポート活動に取り組まれている。

講座を見守る NEC(CSR 推進本部社会貢献室)の池田俊一氏は「今回は入門編ですが、今後中級、上級とグレードアップしていったらいいし、アクションを起こしていただければ、お応えしていきたい」と頼もしい。「単にパソコン本体や操作支援ソフトを販売するだけでなく、その後のフォローもしっかりと担っていきたい」という考えから、NEC は今回の講座を初めとした支援に取り組んでいるのだという。

重度の障害を負っても、自分に合ったスイッチさえあれば、パソコンで意思を伝えることができ、身体は不自由でも世界が広がる。サポートできる看護・介護職の育成に期待がふくらむ講座であった。

●問い合わせ先

NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会
FAX. 03-3380-2310